



# 寄付事業活動報告書

# キブ チカラ

2025

2025年度もたくさんのあたたかなご寄付を  
ありがとうございました。

ご寄付に込められた想いが  
「みんながみんなを支える社会」を  
築きます  
いつもありがとうございます

常務理事 相澤佳余



## 数字でみる 2025 年度



災害復興支援

52 事業

災害復興支援特別基金にて、令和7年8・9月の大雨・台風等被害に関わる支援活動として52事業(約7,500万円)を支援しました。



子ども支援

19 事業

子どもサポート基金・子ども第三の居場所基金・難病児支援基金・夢の奨学金基金にて、子どもに係る支援活動として19事業(約3.5億円)を支援しました。



法人・団体からの寄付

約7億円

チャリティー自販機やTOOTH FAIRYを含む法人・団体の皆様から、合計7億円のご寄付をお預かりいたしました。



個人からの寄付

約14億円

遺贈寄付・毎月寄付を含む個人の皆様から、合計14億円のご寄付をお預かりいたしました。



日本財団  
チャリティー自販機

331 台

新規設置台数は331台。2025年度末時点で全国に8,164台のチャリティー自販機が設置されています。



TOOTH FAIRY

1,265 件

全国の歯科医院より1,265件の歯科撤去金属の提供をいただきました。

# キブノ チカラ

2025

## 目次

### 2025年度活動報告

子ども第三の居場所	03
難病の子どもとその家族の支援	04
日本財団夢の奨学金	05
日本財団よりそい奨学金	06
海洋プロジェクト基金	07
バリアフリー基金	08
災害復興支援特別基金	09-10
HEROs FUND	11
LOVE POCKET FUND	12

### 特集 寄付者の声

日本財団チャリティー自販機	13
TOOTH FAIRY	14
個人・法人からのご寄付	15
寄付金収支報告	16
ご寄付・ご支援のお願い	17-18



様々な困難に直面する子どもたちが、  
安心して過ごせる居場所で「生き抜く力」を育むために

## 子ども第三の居場所

**Pick UP!** 子どもたちに、新たな夢と挑戦のきっかけを -Family with Tigers-

夏休み期間中の2025年7月末、子ども第三の居場所を利用する子どもたちとその保護者計75名が、阪神タイガースのイベント「Family with Tigers」にご招待いただきました。普段はなかなか入ることのできないプロ野球の現場に足を踏み入れ、間近で選手と交流する中で、子どもたちは目を輝かせ、大きな刺激を受けていました。選手にサインをもらったユニフォームを身にまとい、スタジアムでファンと一体となって応援した時間は、忘れられない特別な体験となりました。

この体験は、その場の楽しさにとどまらず、子どもたちの意識や行動にも変化をもたらしています。後日、保護者の方からは「子どものソフトボールへの姿勢が明らかに変わりました。『プロ野球選手のようにになりたい』という目標ができ、練習に取り組む姿が見違えるほど良くなりました」といった声が寄せられました。このような様々な体験の提供によって、子どもたちに新たな夢や挑戦する意欲をもたらしています。

### 支援現場の声



特定非営利活動法人  
ひと・まち・ジャンクション  
平野典子さん

野球の試合についてのこと、サインをもらった選手のこと、球場で食べたかき氷の話など、それぞれがとても楽しんだ様子を聞くことができました。野球に興味がある子はもちろんですが、興味を持っていない子どもも連れていくことができたことが、素晴らしい経験の機会となったと感じています。前年度は、全く野球に興味のなかった子どもが参加したのですが、その後少年野球チームに入り、今ではレギュラーで4番として活躍していると聞いています。その子どもの保護者の方は、「土日の練習のたびに、家族で少年野球の応援に行き、とても充実した日々を過ごしています。私たちにこんな未来が待っているとはいませんでした。野球観戦に連れて行ってもらったことが、全てのきっかけになっています。本当に感謝でしかありません。」と話してくださっています。

子どもたちの挑戦の機会や「やってみたいこと」を見つける機会、「誰かを応援する喜び」を感じる機会に繋がっていると感じています。

子どもサポート  
基金への  
ご寄付はこちら





難病の子どもと  
その家族の社会的孤立を防ぐために

## 難病の子どもと その家族の支援

Pick UP!

### 災害時に命を守るために -医療的ケア児向け災害学習キャンプ-

医療的ケアが必要な子どもとその家族にとって、災害への備えは命に直結する重要な課題です。日本財団への皆様からのご寄付により、(一社)Orange Kids' Care Lab.では、家族で防災を考える機会として「災害学習キャンプ」を開催しました。キャンプでは、マニュアルの見直しや備蓄品の確認、非常食の試食、電源確保などの実践を通じて、実際の避難生活を想定した学びの場を提供しました。

参加者からは、「子どもの成長に合わせた備えの見直しが必要だと気づいた」「家族全員で共有することの大切さを実感した」といった声が寄せられました。また、交流を通じて他の家庭の工夫を学び、防災を“自分ごと”として捉えるきっかけにもなっています。

本取り組みは、防災を一度きりの準備ではなく、日常の中で見直し続けるものに変え、家族の災害へ備える力を育てています。



#### 担当者の声



公益事業部 子ども支援チーム  
(左から)本田・村田・山下・吉野

医療的ケア児や重症心身障害児などの要配慮者が、災害時に安心して避難できる体制づくりについては、まだ課題が多くある状況です。現状では、避難所での受け入れ体制への不安や体調悪化の懸念から、避難所利用をためらうケースが多くあります。

この度、皆様からいただいた寄付金を活用し、災害時に医療的ケア児や重症心身障害児などの利用者受け入れを想定している難病児支援施設に対し、災害対策の環境整備や防災イベントの実施に関する支援を行いました。

皆様の温かいご支援により、医療的ケアや障害の有無にかかわらず、誰もが安全かつ安心して避難できる環境整備と、それを支える地域づくりが広がっています。

子どもサポート  
基金への  
ご寄付はこちら





社会的養護の経験のある若者の未来を諦めない、  
その強い意思に応えるために

## 日本財団夢の奨学金

**Pick UP!** 社会で生きる力を学ぶ -ソーシャル・スキル・トレーニング-

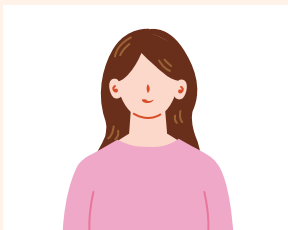
大阪府内の児童養護施設に入所したり、里親家庭の高校生を対象としたソーシャル・スキル・トレーニング(SST)に奨学生が参加し、その後奨学生同士の親睦を深める交流会が開催されました。

SSTでは、講師のアナウンサーから発声や敬語の使い方、人前での伝え方など、社会で求められる実践的なコミュニケーションを学び、「社会に出て必ず役立つ内容だった」といった声が寄せられました。午後には奨学生が交流会企画委員として企画・運営した交流会を

開催しました。同じような経験をした人同士でしかできない話をしたり、相談ができるような友人ができたといった声もあり、奨学生同士のつながりを深める機会となりました。

皆さまのご寄付により、奨学生が安心して学び、仲間と出会い、社会に踏み出す力を育む機会が支えられています。こうした経験の積み重ねが、一人ひとりの未来を切り拓いていきます。

### 奨学生の声



奨学生 Mさん

寄付者の皆様のご支援があったからこそ、アルバイトに時間を割かれることなく、学業と国家試験対策に専念することができました。勉強に集中できる環境は決して当たり前のものではなく、皆様の温かい善意によって支えられている尊い機会であると、日々強く実感しておりました。「努力できる環境があること」そのものが、どれほど恵まれているか。国家試験に向けて本気で取り組む中で、私はそれを何度も実感しました。

子どもサポート  
基金への  
ご寄付はこちら





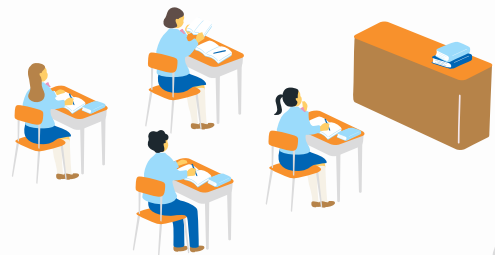
犯罪被害にあった子どもたちを  
支えるために

## 日本財団 よりそい奨学金

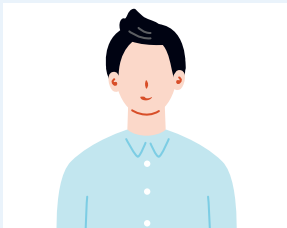
日本財団の「よりそい奨学金」は、保護者などが殺人や傷害、交通事故などの被害に遭い、経済的に不安定となった家庭の子どもたちを対象とした、返済不要の給付型奨学金です。犯罪被害者の子どもたちは社会から孤立しがちで、疎外感を抱えながら生活しているケースも少なくありません。本奨学金には、子どもたちが周囲とのつながりを取り戻してほしいという願いが込められています。

「よりそい奨学金」は、周囲の大人ではなく、あくまで子ども本人の意思に基づいて給付されます。申請書には「学校で学びたいこと」や「将来の夢・目標」を記入する欄があり、本人の直筆で作成されます。学びたいという意欲を大切に、学業成績は問いません。また、他の奨学金制度との併用も可能なので、様々な状況にある子どもたちが利用することができます。

2017年の給付開始以降、延べ800人以上が利用し、2025年には高校1年生から大学院生まで約300人が本奨学金の支援を受けながら学びを続けています。



### 奨学生の声



奨学生 Aさん

昨年、奨学金を申請し決定されるまでの間に、先の見えない不安が大きくなっていき、大学に通うのを諦めようかと思いはじめたときに、奨学金の決定通知書を受け取りました。決定通知書を見たときは、大学に通うのも夢も諦めずに頑張れと言われてもらった気持ちになり、涙が止まりませんでした。無事に学費を支払うことができ、資格取得のための講座を受講することもできました。学校では先生に質問したり、同じ学部の友人達とも勉強することでいい成績を取ることができました。

子どもサポート  
基金への  
ご寄付はこちら





多くの人が海に関心を持ち、  
豊かな海を次世代に残すために

## 海洋プロジェクト基金

※2026年度より基金名が変更されました。

Pick UP!

### ごみ問題について考えるワークショップを開催 -「うみごme」プロジェクト-

海洋ごみ問題は、世界的に深刻化している環境課題の一つです。その多くは海で発生したものではなく、私たちの生活の中で生まれたごみが川を通じて海へ流れ出たものだといわれています。しかし、これまでの取り組みは「捨う」ことに重点が置かれ、発生そのものを抑える視点は十分とは言えませんでした。現場では「捨っても捨ってもなくならない」という声も多く聞かれています。

こうした状況を受け、日本財団への皆様からのご寄付により生まれたのが、(特)イシュープラスデザインが実施する「うみごme(みい)」プロジェクトです。

ごみを単なる不要物としてではなく、その背景にある人の気持ちや行動に着目し、“自分ごと”として捉え直すことで、海ごみを「生まない」社会を目指しています。海ごみにつながるひとの気持ちを「キャラクター」として可視化するワークショップや展示、コンテストなどを実施しました。子どもから大人まで幅広い世代が参加し、自分の中にもある“ごみにつながる気持ち”に気づく機会を創出しました。一人ひとりの意識の変化を促し、行動変容へとつなげていくことを目指しています。

#### 支援現場の声



特定非営利活動法人  
イシュープラスデザイン  
土屋 はるなさん・白木 彩智さん

現場では「捨っても捨ってもなくならない」という声を多く聞きました。だからこそ大切なのは、ごみを減らすこと以上に、「ごみが生まれにくい状態」をつくることだと考えています。また、ごみ問題というと、どうしても「正解を学ぶ場」になりがちです。しかし、それだけでは自分ごとになりにくい。そこで、キャラクターとして表現することで、自分の中にある気持ちを客観的に見つめ直せるようにしたいと考えました。

海ごみの多くは、私たちの日常の中から生まれています。そのことに気づき、一人ひとりが立ち止まって考えることが、社会を変える第一歩になるはずです。

ご寄付はこちら





障害や人種・性別等に関わらず、  
ひとりひとりが活躍する社会の実現のために

## バリアフリー基金

Pick UP!

### 障害の有無を超えて、一緒に競う -車いすテニスクリニックを開催-

2025年11月、日本財団への皆様からのご寄付により、慶應義塾大学の学生が主体となって企画・運営する国際大会「横浜慶應チャレンジャー国際テニストーナメント2025」にて、「車いすテニスクリニック」が開催されました。小学生から60代まで約30人が参加し、健常者・障害者の壁を超えて競技用車いすに乗りながらラケットを握り、車いすテニスの魅力を体感しました。本企画は、「障害の有無を超えて、一緒にスポーツを楽しめる場をつくりたい」という学生たちの思いから開催されました。

慶應義塾大学体育研究所 坂井利彰研究室の学生が中心となり、協賛企業や競技団体、パラリンピック日本代表・眞田卓選手らの協力を得ながら、限られた準備期間の中で実現しました。参加者からは、「障害の有無に関係なく楽しめるスポーツだと実感した」「パラスポーツが身近に感じられた」といった声が寄せられました。また、学生自身も大会運営を通じて、スポーツが多くの人に支えられて成り立っていることを学び、競技の枠を超えたスポーツの社会的価値を実感したといいます。

日本財団はこれからも、スポーツの力を通じて、誰もが自然につながり、活躍できる社会の実現を目指していきます。



#### 支援現場の声



慶應義塾大学 体育研究所  
坂井利彰教授

学生たちが主体的に動き、時には失敗もしながら、多くの関係者と協力してこのイベントをつくり上げてくれたことを誇りに思います。うまくいかない経験も含めて、一つひとつを乗り越えていく姿勢こそ、彼らの大きな成長につながりました。その挑戦は、日本財団が掲げる『スポーツの力で社会課題を解決する』という理念とも深く合致しています。学生たちがその原動力になり得ることを改めて実感しましたし、この貴重な機会をいただいた寄付者の皆さまに心から感謝しています。今回の経験を力に変え、これからもスポーツを通じて社会に新しい価値とつながりを生み出せるよう、学生とともに挑戦を続けていきたいです。

ご寄付はこちら





被災地への迅速な緊急支援を  
実施するために

## 災害復興支援特別基金

Pick UP!

### ① 令和7年8、9月の大雨・台風等被害に関わる支援活動

—写真がつなく、記憶と支え合い—

災害で失われるのは、家や家財だけではありません。家族の歴史や人生の時間が刻まれた「写真」もまた、被災者の心に深い影響を残します。日本財団への皆様からのご寄付により、2025年8月・9月に発生した、大雨被害のための支援の一環として、熊本県を拠点とする任意団体「あらいぐま人吉」に助成しました。あらいぐま人吉は、大雨で泥水にまみれた写真を、一枚一枚丁寧に洗浄し、持ち主のもとへ返す活動を行っています。写真はその人が生きてきた時間そのものであり、手元に戻った

瞬間、涙を流して喜ばれる方も少なくありません。

この活動は単なる写真の洗浄にとどまらず、被害者がボランティアとして参加することで、「支援される側」から「支える側」へと変わるきっかけを生み出しています。洗浄の技術を受け継ぐことで、次の災害時には新たな支援者が生まれる—そんな循環も広がり始めています。皆さまのご寄付により、令和7年大雨で失われかけた記憶を取り戻すだけでなく、人と人が支え合う復興のかけがえが育まれています。

#### 支援現場の声



あらいぐま人吉 代表  
長山公紀さん

写真は、その人が生きてきた時間そのものです。被災しても、それを取り戻すことで、前を向くきっかけになります。被災した写真をどうすれば良いか分からずに悩んでいた方は、洗浄を依頼できたことで心が軽くなったと安堵され、綺麗になった写真を一緒に見たことで家族の会話が戻ったという声も聞かれています。

これまでに扱った写真は約17万枚、そのうち12万枚を洗浄し、返却してきました。被災された方々は“支援される側”になりますが、洗浄作業に参加することで「自分も復興に関わっている」という実感を持ってもらうことも、この活動の大切な役割です。

ご寄付はこちら





Pick UP! 2

## 令和6年能登半島地震に関わる支援活動 -春日野キリコ祭りで使用した太鼓等、計21点を修復-

2024年に発生した能登半島地震で大きな被害を受けた石川県珠洲市宝立町春日野地区。同地区で、2025年9月に2年ぶりに伝統行事「春日野キリコ祭り」が開催されました。津波によって地区が保有する7基のキリコ(能登地方に伝わる巨大な灯笼)のうち3基が流出し、祭りに欠かせない太鼓や祭具も土砂に埋まるなど、祭りの継続が危ぶまれる状況でした。

太鼓の修理には高額な費用が必要でしたが、日本財団への皆様からのご寄付により、春日野地区を含む8カ所で太鼓や祭具など計21点の修復・新調が実現しました。祭り当日は、市外で避難生活を送る若者や学生ボランティアも集まり、修復された太鼓の音が2年ぶりに地域へ響き渡りました。太鼓は単なる楽器ではなく、“地域の魂”ともいえる存在。地域に受け継がれてきた祭りや音を守ることは、人と人とのつながりを取り戻し、復興への力につながっています。



### 支援現場の声



公益社団法人石川県太鼓連盟  
副会長 浅野正規さん

地震や津波による甚大な被害を受けたこの地で、二年ぶりに春日野キリコ祭りを開催できたことは、地域にとって大きな希望となりました。津波によって祭礼道具が土砂に埋まり、流失するなど、祭りの継続すら危ぶまれる状況にありましたが、日本財団からのご支援により、多くの道具を修復・整備することができました。

能登の人々にとって、祭礼道具は地域の魂そのものです。久しぶりに響く故郷の太鼓の音に導かれるように、市外へ避難していた若者や県外の祭りボランティアも集い、地域には再び活気と人のつながりが戻っていました。修復された祭礼道具を前にした地域の方々の表情は、今も深く心に残っています。「文化」を守り継ぐことは、人々の心を結び、地域の再生を支える力になる。そのことを、この事業を通して改めて実感しました。今後も能登の祭りの継承に、微力ながら携わり続けてまいります。

ご寄付はこちら





スポーツの力で  
ソーシャルイノベーションを

## HEROs FUND

### Pick UP! 「自分にもできることがある」と思う人を一人でも増やすこと -HEROsアスリートの挑戦-

トップアスリートが社会課題の解決に挑む「HEROs」。HEROsアスリートである小塚崇彦さんと杉山美紗さんは、能登半島地震の被災地で継続的な復興支援に取り組んでいます。きっかけは「自分にもできることがある」という気づき。二人は重機オペレーターの資格を取得し、土砂撤去や環境整備など現場での支援を担っています。

活動の中で印象的なのは、人と人とのつながりだと小塚さんは話します。被災地で出会った女性との交流を

通じて、「ここで暮らし続けたい」という言葉に支えられ、活動の意義を実感しています。また、杉山さんは子どもたちのためにプール完成式典で演技を披露し、笑顔と歓声に包まれました。

HEROsアスリートは自身の発信力や行動力を生かし、「自分にもできることがある」と思う人を一人でも増やすことを目指しています。スポーツの力と人のつながりが、復興への希望を生み出しています。

#### HEROsアスリートの声



小塚 崇彦さん

杉山美紗さんのSNSでの活動を見てHEROsの活動に参加しました。その後、重機オペレーターの資格を取得し、能登の被災地で支援活動を行っています。現場では、重機によって瓦礫が撤去され、「道」ができていく様子に強く感動しました。「道ができることで人や物の流れが生まれ、生活再建が一気に進む」と、災害時の支援の意義の大きさを実感しています。また、被災地で出会った方々との交流も活動の原動力となっています。自分たちの活動が、誰かの“ここで暮らし続ける”という決断につながったと知り、大きな励みになりました。

ご寄付はこちら





「生きにくさ」を抱えている人々や  
地方創生をサポートするために

# LOVE POCKET FUND

Pick UP!

## 地域の手で育てる、復興の拠点

-らいか堂-

石川県輪島市で、(一社)ごちゃらあとがLOVE POCKET FUNDの支援を受けて2026年5月オープンを迎えた「らいか堂」。地域の子どもたちやボランティアが集まり、伝統工法「三和土(たたき)」による土間づくりを行いました。

あえて手間のかかる作業を選んだのは、「地域の人と一緒に場をつくりたい」という小浦理事長の思いから。作業を通じて自然と会話が生まれ、子どもから大人までが関わり合う時間となっています。完成した土間には、多くの人の手と想いが重なっています。

震災後、集まる場所を失った地域において、「らいか堂」は人が再びつながる拠点として期待されています。料理や交流など日常の営みを取り戻しながら、孤立を防ぎ、地域の循環を生み出す場へ。今後も「らいか堂」は、イベントや様々な活動を通じて継続的に育まれていきます。



### 支援現場の声



一般社団法人 ごちゃらあと  
小浦友行さん

東日本大震災の時、被災された方から発災後5年から6年後が谷底だっ  
たという話を聞きました。谷底というのの一つは支援が切れてしまうこと。  
もう一つは復興住宅に引っ越しが始まることで、またコミュニティー間の  
つながりが切れてしまう可能性があるということ。そこには孤立や高齢化、  
医療だけでは対応しきれない社会課題が凝縮されてしまう可能性があり  
ます。その谷底の時期が来る前に、らいか堂がオープンでき、何とか間に  
合わせることで、本当によかったと思っています。

地元の人が、らいか堂はこの地域の「へそ」だと言ってくれました。その  
ような地域のコミュニケーションの循環が生まれるような場所になれるよ  
う、オープンが終わりではなく、地域の方たちと継続的に作り上げていく、  
らいか堂になれたらと考えています。

ご寄付はこちら





ドリンクを買うだけでできる、  
社会貢献の形

詳細はこちら



# 日本財団チャリティー自販機

## 設置者の声

### 株式会社 フルヤ金属 つくば工場

生産技術開発統制部 工場管理室  
杉山 美夢様



**導入経緯** 工場で社会貢献に取り組めないか、また従業員が無理なく、かつ全員が自然に参加できる活動はないかという声が上がったことをきっかけに、リサーチを開始しました。その中で日本財団「夢の貯金箱」を知り、詳細を伺ったうえで、工場内の自動販売機を活用した取り組みとして導入を決定しました。導入にあたっては、工場内の自動販売機ベンダー各社にも趣旨をお伝えし、ご協力をいただきながら、2010年12月より運用を開始しました。

**導入後の反応** 自動販売機での購入1本あたり10円が自動的に寄付される仕組みは分かりやすく、従業員からは「いつもの購入がそのまま支援につながる」といった声上がり、好評でした。中には、これまで社外で飲料を購入していた従業員が「寄付につながるなら会社で買うようにした」と、工場内の自動販売機を利用するようになった例もあります。また、集まった寄付をどの活動・分野に届けたいかを社内で話し合う機会が生まれ、身近な課題から社会貢献の意義を考えるきっかけになったと感じています。こうした反応を受け、全工場へ順次展開しました。



### マルトモ 株式会社

チルド工場工場長  
野本 純一様



**導入経緯** 当社は、海の恵みを活かす食品企業として、豊かな海洋資源を未来へつなぐことを重要な使命と考えています。この思いをかたちにする取り組みとして、海洋ごみ削減や生態系保全などの活動を支援する日本財団チャリティー自販機を設置しました。日々の飲料購入が海を守る一助となる仕組みを通じ、従業員や来訪者の皆さまと共に持続可能な海づくりを進めてまいります。

**導入後の反応** 試験的に1台のチャリティー自販機を導入した所、従業員からは「日常の中で海の保全に貢献できて嬉しい」「自分の選んだ支援先が海の未来につながることにやりがいを感じる」といった声が寄せられました。特に、海洋環境の保全を選択できる仕組みが、多くの従業員の興味と関心を集めており、継続的な寄付行動へとつながっています。今後もこの取り組みを通じて、海洋保全への理解と共感の輪をさらに広げていきたいと考えています。

### 株式会社 よこまち

取締役 管理部 部長  
尾崎 淳様



**導入経緯** 2013年に創業110周年記念事業の一環として、これまで主に地元向けに行ってきた社会貢献活動の幅を拡げたいと模索していたところ、お取引先様から「誰もが気軽に社会貢献活動に参画できる寄付型の自販機がありますよ」とオススメされ、「夢の貯金箱」を設置いたしました。

**導入後の反応** 自販機のラッピングに当社110周年の記念ロゴをあしらって頂き、とても明るい「夢の貯金箱」が、よこまちストア全店舗に設置されました。企業見学にいらして頂いた学生の皆さんに「夢の貯金箱」の説明をすると「初めて知った」「とても良いことしますね」「では、この自販機で買うようにします」と関心をもってもらい、日本財団の取り組みが掲載されているサイトを紹介しています。



歯科撤去金属を  
子どもたちへの支援に変える

# TOOTH FAIRY

## TOOTH FAIRYとは

2009年より日本歯科医師会と日本財団が協働で行っているチャリティープロジェクトです。全国の歯科医院より、歯科撤去金属を集め、難病を抱える子どもたちや途上国の子どもたちを支える団体へ支援を行っています。

カンボジアでは、雨季や乾季に対応できる体育施設が整っておらず、他国と比べて体育教育が遅れています。この状況を受け、日本財団からの支援を通じて、教育支援センターKIZUNAが、2024年よりカンボジアにて簡易体育館の建設を進めてきました。2025年4月には、3校の中学校で体育館が完成しました。

その結果、雨季の体育教育の実施率は0%から57%へ改善、外遊びの頻度も33%から50%へ向上しました。また、教育施設としての機能だけでなく、地域コミュニティの拠点として、近隣の小学生や住民にも利用されています。



### 歯科医師の声



有明デンタルクリニック  
小島 将司先生

大学院進学時に奨学金を借りた経験や、ボランティアでアジア各地を飛び回っていたスタッフが身近にいたことから、「困っている人に手を差し伸べたい、何かできる事はないかな」と考えていました。

そんな時、知人から「歯科医師だからこそできる社会貢献がある」と TOOTH FAIRYを紹介してもらいました。治療で除去した金属が子どもたちの支援に役立てられることを患者様にお伝えすると、皆さん快く協力していただけます。

TOOTH FAIRYからいただいた感謝状やポスターは院内に毎回飾っており、患者さんにもこの活動を知っていただけるよう取り組んでいます。これからも、自分ができる社会貢献を続けていきたいです。

詳細はこちら





日本財団の活動は、個人・法人の皆様からの多くのご寄付によって支えられています。  
ご寄付を決められた経緯や思いを、一部ご紹介いたします。

## 法人・個人からのご寄付

### 法人からのご寄付

#### 寄付者の声(法人)



#### 地建工業株式会社

代表取締役 会長 松村公二さん(上)

取締役 最高総務責任者 松村 舞子さん(下)

私たちは山梨県甲府市で、防災公園の整備や防災イベントの開催、災害時の炊き出し支援など、地域に根差した活動に取り組んでいます。2023年には、日本財団チャリティー自販機を山梨県の総合建設企業として初めて導入しました。

2024年には、能登半島地震の被災地支援として、地域の皆さんと一緒に「SAKURAまるしえ」「Xmasまるしえ」を開催し、売り上げの一部、計200万円を日本財団を通じて被災地へ届けました。震災から時間が経っても、「忘れていないよ。ずっと応援しているよ」という気持ちを届けたかったためです。能登と山梨は離れていますが、災害は決して他人ごとではありません。地域の皆さんにも、自分事として防災や支え合いを考えていただくきっかけになればと思いました。

これからも地域の皆さんと一緒に、防災や子育て支援など、目の前の課題の一つずつ向き合っていきたいと考えています。

### 個人からのご寄付

日本財団の「遺贈寄付」は、遺言書の作成によって、ご自身の財産の一部を社会課題の解決や次世代支援などに役立てる寄付の形です。子ども支援、災害復興、福祉、教育、海洋問題など、寄付者ご自身の想いに応じて支援分野を選ぶことができ、「人生の思いを未来につなぐ寄付」として広がっています。日本財団では専門スタッフによる相談体制を整え、遺言作成や手続きに関する相談にも丁寧に対応しています。

遺贈寄付を決めた太田千恵さんのお話を一部ご紹介します。  
太田さんは、自分が亡くなった後の資産は障害者の為に役立てて欲しいという思いから日本財団遺贈寄付サポートセンターへ連絡され、『遺贈寄付』することを決められています。

#### 遺贈寄付を決められた方の声(個人)



遺言書を作成し、  
日本財団に寄付をする事を決めた  
太田千恵さん

遺言書を作成した前後では、迷いと不安がなくなりました。両親が残してくれた財産、私自身が頑張って育ててきたお金。私が死んだらどうなるのかな、無駄にしたくないなとも思ってきたので、行き先がきまったような、ゴールが見えた気持ちです。私自身、生まれつき障害があります。今までは母に悲しんで欲しくなくて、一生懸命努力してきました。これからは私だけの人生。無理なんかしないで、本当にやりたいことだけ、楽しいことだけを考えて暮らしたいです。日本財団の担当の方が、これからはご自身の為にしっかりとお金を使ってくださいね、と仰った言葉が私の励みになっています。

# 寄付金収支報告

(2025年4月1日～2026年3月31日)

(単位:円)

基金名	寄付額	支出額	備考
日本財団子どもサポート基金	800,841,572	131,224,355	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:139,638,370
日本財団子どもサポートプロジェクト 子ども第三の居場所基金	13,099,289	128,295,108	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:797,742
日本財団子どもサポートプロジェクト 難病児支援基金	80,777,417	100,119,682	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:675,750
日本財団子どもサポートプロジェクト 夢の奨学金基金	13,714,853	194,264	
災害復興支援特別基金	194,143,530	117,409,628	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:66,274,046
LOVE POCKET FUND	31,188,469	835,618	
HERO's FUND	18,146,416	18,194,245	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:16,900,724
海洋プロジェクト基金 ※2026年度より基金名が変更されました。	17,700,822	6,950,500	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:1,707,554
バリアフリー基金	4,240,131	5,902,531	
夢の貯金箱	20,236,480	228,882,178	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:45,312,069
TOOTH FAIRY	182,379,378	182,978,369	うち換金手数料:1,163,232
遺贈基金	700,539,867	637,750,784	
社会貢献ボートレース基金	15,000,000	0	
ウクライナ避難民支援基金	0	86,354,557	
メットライフ基金	0	28,913,054	
日本ベンチャーフィランソपी基金	0	129,167,918	
The Nippon Foundation-GEBCO Alumni Fund	0	2,646,926	
合計	2,092,008,224	1,805,819,717	

WEB site | 寄付者一覧

2025年4月～2026年3月にご寄付いただいた  
皆さまのお名前を、WEBサイトで紹介しています



2025年度もたくさんのあたたかな  
ご寄付をありがとうございました

# ご寄付・ご支援のお願い

## 夢の貯金箱

困難を抱えた子ども、災害復興、障害分野など、その時々  
の日本社会のニーズに合わせて支援を届けるための基金です。

### 銀行振込で寄付（銀行振り込み先）

銀行名	三菱UFJ銀行(0005)	口座番号	1012106
支店名	本店(001)	口座名(漢字)	公益財団法人日本財団
預金種別	普通	口座名(カナ)	ザイ)ニッポンザイダン

### 基金のご案内



## 日本財団 子どもサポート 基金

詳細はP.3～6を  
ご参照ください。

### 銀行振込で寄付（銀行振り込み先）

銀行名	三菱UFJ銀行(0005)	口座番号	2443179
支店名	きよなみ支店(804)	口座名(漢字)	公益財団法人日本財団
預金種別	普通	口座名(カナ)	ザイ)ニッポンザイダン

### オンラインで寄付



## 海洋プロジェクト 基金

詳細はP.7を  
ご参照ください。

### 銀行振込で寄付（銀行振り込み先）

銀行名	三菱UFJ銀行(0005)	口座番号	2443184
支店名	きよなみ支店(804)	口座名(漢字)	公益財団法人日本財団
預金種別	普通	口座名(カナ)	ザイ)ニッポンザイダン

### 基金のご案内



## バリアフリー基金

詳細はP.8を  
ご参照ください。

### 銀行振込で寄付（銀行振り込み先）

銀行名	三菱UFJ銀行(0005)	口座番号	2443197
支店名	きよなみ支店(804)	口座名(漢字)	公益財団法人日本財団
預金種別	普通	口座名(カナ)	ザイ)ニッポンザイダン

### オンラインで寄付



## 災害復興支援 特別基金

詳細はP.9～10を  
ご参照ください。

### 銀行振込で寄付（銀行振り込み先）

銀行名	三菱UFJ銀行(0005)	口座番号	1660782
支店名	本店(001)	口座名(漢字)	公益財団法人日本財団
預金種別	普通	口座名(カナ)	ザイ)ニッポンザイダン

### オンラインで寄付



## HEROs FUND

詳細はP.11を  
ご参照ください。

### 銀行振込で寄付（銀行振り込み先）

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	2443190
支店名	口座名(漢字)
きよなみ支店(804)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

### オンラインで寄付



## LOVE POCKET FUND

詳細はP.12を  
ご参照ください。

### オンライン・銀行振込で寄付

インターネット <https://love-pocket-fund.jp/>



## 日本財団 チャリティー自販機

詳細はP.13を  
ご参照ください。

### 申込・お問い合わせ

インターネット <https://www.nippon-foundation.or.jp/donation/charity>

お電話 ☎ **0120-533-236**  
[受付時間] 平日9:00~17:00



## TOOTH FAIRY

詳細はP.14を  
ご参照ください。

### 申込・お問い合わせ

インターネット <https://www.tooth-fairy.jp/>

お電話 ☎ **0120-533-236**  
[受付時間] 平日9:00~17:00



## 遺贈寄付

詳細はP.15を  
ご参照ください。

### 申込・お問い合わせ

インターネット <https://izo-kifu.jp/>

お電話 ☎ **0120-331-531**  
[受付時間] 平日9:00~17:00



皆様からのあたたかなご寄付をお待ちしています

領収証をご希望の場合は、  
寄付ポータルへのご登録をお願いいたします

ご寄付に関するご相談・お問い合わせ



お電話でのお問い合わせ

**0120-533-236 (通話無料)**

9:00-17:00 (月～金 / 土日祝日を除く)



メールでのお問い合わせ

**[kifu@ps.nippon-foundation.or.jp](mailto:kifu@ps.nippon-foundation.or.jp)**

税額控除や所得控除などの税制優遇の対象になります。  
お預かりする寄付から、日本財団は間接経費をいただくことなく、  
すべてを社会貢献活動に活用します。